



FIWC 関東中国 2009年夏ワークキャンプ下見報告書

●海南省でのキャンプ経緯●

2007年までに9回のワークキャンプを広東省リンホウ村、そして前回のキャンプ地である広東省土光村では計4回ワークキャンプを行ってきた。

リンホウ村は、月1で中国人キャンパーがミニキャンプ・訪問を、土光村では前回のキャンプをきっかけにミニキャンプ・訪問者が増え村全体として明るくなった。キャンプを重ねるごとにリンホウ村・土光村も生活環境も整ってきた。

つまり、大きなワークニースはなくなったのである。そのため次回からは、リンホウ村や土光村のように長期的に関われるようなキャンプを作れるように大きなワークニースのある村でキャンプをするというように決めた。

●海南省のワークキャンプ状況●

13の村があるといわれている。
2008年5月より中国人キャンパーが村でワークキャンプを開催し始めた（高橋・江口参加）。
現在は海南委員会の中国人キャンパーも少なく、その村でのみのワークキャンプであり、活動場所の拡大・日本人キャンパーとの協働は初めてである。

■広東省吳川市土光村再訪■

日時:2009年1月28日~1月31日
江口潔和・高橋真代・竹村直樹・トウ晶音

■海南省下見■

日時:2009年1月31日~2月4日
日本人:江口潔和・高橋真代・トウ晶音
中国人:宗仁武・林千ャオ

スケジュール

- 28日 昼:高橋、トウ、竹村が土光村の子供が通う小学校へ訪問し前回のキャンパーと再会
夜:江口と合流し広州→土光村へ
- 29日 土光村滞在
- 30日 土光村滞在。
夕飯はカレーパーティーをし、村人と夕飯を食べる。
- 31日 土光村→(バス)→ジャンジャン→(電車)→海口
夜:中国人キャンパーと合流
- 2月1日 海口→石龍村へ
昼:石龍村委員長と村へ訪問、案内
夜:村人を中心に夕飯を準備してくれ、委員長とともに夕飯、飲み
- 2日 石龍村→石馬玲村へ
昼:石馬玲村委員長と村へ訪問、案内
夜:近くの町まで出て委員長とともに夕方村へ戻りMTG。
- 3日 石馬玲村→石龍村へ
夜:村人が再び夕飯を準備してくれ、みんなで夕飯を食べる。
- 4日 石龍村→三亚へ。解

視察結果●

私たちは、「石龍村と「石馬玲村」という村を訪問した。

①ワークニース

■ 石龍村■

建物の建築 1960年代のため老朽化、トイレ・シャワー室は2つある

水道は 2008年設置。

娯楽室ない。村から道までの地面の足場が悪い。

■ 石馬玲村■

建物の建築：2004年に立替のため問題なし。

トイレ・シャワー室は各自部屋設備。



②町との交流

■ 石龍村■

27人中約10人は旧正月中に里帰り。

舗装されている道まで出るのに1km近く足場の悪い地面が続く、舗装されている道も田舎道である。

町での偏見がいまだに強いらしい。

■ 石馬玲村■

9人中約3人は旧正月中に里帰り。

子供や息子夫婦が村の敷地内に住む環境がある。

大通りに面しているため、バス・バイクがつかまえやすい。

子供や友達の訪問が多くある。



③ 経済状況

■ 石龍村■

政府からの月170元支給される。

体力のある数人の村人はバナナや果物を売り、収入の足しにしている。

■ 石馬玲村■

政府からの月170元支給される。

子供をもつ村人が多く、経済的にも援助があるようである。



これらの視点から、石龍村がよいのではないだろうか判断した。

●石龍村●

【石龍村のワークニーズ】

① 建物の修理

築 1960 年より立替もないまま現存する建物がある。雨漏りやドアのひびなどがみられているので修理が望まれている。

② 娯楽室の建設

娯楽室が存在していたであろう建物は残っているが、現在は物置き部屋になっている。窓や壁、柱に破損部位あり細かい亀裂がみられる。

③ 舗装されている道までの地面の舗装

舗装されている道までの足場がとても悪く、村人ではかなり難しい道のりである。約 1km 近く続く。

④ トイレを各部屋に 1 つずつ

現在トイレは村に 2 つ。しかし、台風がくるとトイレに行けなくなってしまうので必要である。

正式名：海南省ドン中黎族苗族自治権石龍
医院

建村年：1957 年

人数：男 21 人

女 6 人

計 27 人（未成年 0 人）

家庭数：5 組

収入：政府より月 170 元

医療制度：週に 2 度医師の訪問

民族：80%は黎族

言語：海南語（半数は普通語も話せる）

気候：年中温暖。9.10 月に台風が多い。

海南語を話せるチャオを中心に、村人と交流する時間を少しでも多く設け、仲を深めることで「本当に望んでいるもの」を聞き出し、この 4 つのニーズがあげられた。そして、4 人の話し合いのもとワークニーズを娯楽室に決定した。

理由は、村人同士の交流の場がない、台風のときの遊ぶ場がない、TV をもてない村人がいるからである。また、交流が高まることでより村人同士の協働が深まるのではないだろうか。

さらに、娯楽室の場合村人一人一人に偏りなくハッピーになるワークニーズと考える。例えば、老朽化した建物の屋根の修理・トイレ建設の場合だと、その建物の主、トイレ付近に住む村人だけがハッピーで差が生まれる。今回は初めてのワークキャンプのためこのような差が生まれないようなワークがよいのではないかと考え娯楽室に決定した。

しかし、村人の希望としては「地面の舗装」の要望が高かった。この凹凸の地面は、村と町をつなぐ唯一の一本の道なのである。しかし、約 1km ある凹凸の地面の費用は高く、さらに時間も必要ということで今回は娯楽室を作り、次のキャンプで何回かに分けて地面を舗装していくということになった。



【娯楽室の修理について】

面積: 13m×6m×3.5m

外観: 比較的に壊れていて老朽化。細かい亀裂が入っている。

窓は全部で 10 個で割れている

内部: 破損は少ないが、物置部屋になり埃っぽい

壁・床を土光村の客室のような材質になるように、修理していく。

予算: 約 1 万元



中国キャンパーが大学へ戻り大工と相談しながら見積もりをたてる。

JIA から 2000~3000 元の援助をおいる可能性はあるが、政府からは県に資金がないので援助は難しい。また、海南委員会は設立して間もないため基金会もない。そのため、残りの資金は日本人がもつ可能性が高い。前回よりもキャンプ費用が高くなることが予想される。

(文責: 高橋 真代)

●おわりに●

最後になってしまいましたが、2009年石龍村ワークキャンプのリーダーをつとめさせて頂くことになりました成城大学4年の荒木 佑子と申します。昨年 2008 年の土光村キャンプが初ワークキャンプで、まだまだ初心者です。

至らない点が出てくると思いますが、常夏の石龍村で熱いキャンプを作るために全力を注ぎますので、OB・OGの皆様や中国キャンプ関係者の皆様ご指導・ご協力をよろしくお願い致します。

2009 年

夏キャンプ参加者

募集中!!!

FIWC 中国キャンプへのお問い合わせは・・・

<http://fiwc-c.com/mail/>